

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4790500096 | | |
| 法人名 | 有限会社 アーバンエステート | | |
| 事業所名 | グループホーム まえはら | | |
| 所在地 | 沖縄県宜野湾市真栄原3-6-28 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年2月26日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年 7月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyo_detail_2016_022_kani=true&iigyosyoCd=479050096_00&PrefCd=47&VersionCd=022 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F |
| 訪問調査日 | 平成29年3月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんが中心になるように、周りを職員・御家族・関係者で支援できるよう心がけている。入居者さんから希望があれば、実現できるよう皆で方法を考え、職員が1人で悩まないように普段からコミュニケーションを大事にしている。また、1人1人に合った役割を入居者さんや職員に持ってもらう、それを職員・入居者さん一丸となって支えあっている。職員が落ち込んでいたり苦しいときは、入居者さんに相談にのってもらったり、笑わせて貰ったり、「守り・守られ」の関係性を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と日常的に散歩に出かけ、月1回は遠方へのドライブに出かけるなど、一人ひとりの要望に合わせて外出支援を行っている。家庭的な雰囲気や管理者や職員のモチベーションも高く、家族や関係者、地域の方々気軽に訪問できるよう開放している。ヒヤリハット活動の推進を積極的に行い、ハイリソフの法則に基づき分析もされている。月1回の勉強会は輪番制で、担当者が積極的にテーマを決め実施する等、役割を与える事で職員の資質向上に繋がっている。行政や地域包括センターとは事業所や利用者との問題解決に向け取り組むなど連携が図られている。アセスメントからケアプランの作成、支援の実施、記録、モニタリング、見直しなど、利用者の意向に沿った介護計画が作成され、全職員で共有し個別ケアに取り組み、介護計画に沿った実施状況の記録も整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 5月15日

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 今年度、職員で話し合いを行い、理念を新たに掲げた。ミーティングで意味を共有し、目の届くところに掲示することで意識付けを行っている。 | 地域密着型サービスの意義を職員で話し合い、地域生活の継続支援と、事業所と地域との連携を重視した理念を、今年度新たに解りやすい言葉で作り上げ、共有スペースに掲示することで管理者と職員は共有して実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方からの差し入れが頻繁。地元の中学生の職場体験受け入れ。敬老会には中学生のボランティアや子供会がエイサー披露してくれた。 | 事業所の近隣には保育園や小中学校があり、職場体験の受け入れや、誕生会、敬老会には子供会のエイサー等、地域との交流が図られている。又4人の利用者とともにキャラバンメイトへも参加、事業所に相談に訪れる方もいる。認知症講座の小規模での開催を目標に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 在宅介護されている御家族の相談窓口。また、今年度はキャラバンメイトも取得し、地域の方々に認知症を理解してもらう活動も計画中。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活動内容報告や、職員が感じた不安要素や、推進会議に参加して頂いている方々の不安要素などを共有し、積極的な意見交換を行っている。 | 運営推進会議は利用者や家族、地域代表、行政職員を委員として、利用者とともに昼食を摂りながら年6回定期的に開催し、事故報告や事業所の現状、取り組みなどの報告を行い、委員からの要望や助言などを事業所全体で話し合い、サービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議は委員からの状況報告に対して、評価及び要望、助言を行う等双方向的な会議となっているが、利用者家族の参加が少ない。家族が積極的に参加できる取り組みと、委員会への不参加者への議事録の送付が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 保護課や介護長寿課へ定期的に入居者さんと一緒に訪問し、本人を交えて話しをするようにしている。 | 市長寿課や地域包括センターの職員が毎回運営推進会議に参加、事業所の現状を報告している。又、対応困難な事例に対しての相談には、助言や問題解決に向けて一緒に取り組むなど連携を図っている。又定期的に利用者と窓口を訪問し、情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に加えQOLの勉強会を実施する事で、職員に尊厳を守りながらのケアを考えてもらい、利用者さんののびのびと過ごせる環境を提供。 | 毎月のミーティング時のファイルに、身体拘束に対しての文言があり、司会が読むことで職員全員が意識して取り組んでいる。又、月1回、尊厳や身体拘束、QOL等の勉強会を実施しており、尊厳を保持した身体拘束をしないケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 | どのような行為が虐待に当たるのか、職員 | | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | このような行為が虐待に当たるのが、職員間ミーティングや勉強会で積極的な意見交換を行い、又、利用者さんのケアに対する感想を聞いている。 | | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | RPGにて、権利擁護が成された自立支援を職員に見せ、考えてもらっている。又、後見人と職員全体が意見交換できるよう情報を共有している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご本人・ご家族に対し、分かりやすく簡潔に説明し、時には別紙や具体例をあげ、伝わりやすい言葉を用いるように心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会時に利用者さんの近況報告をし、話の流れからご家族の希望や意見を聞き、職員間で共有。家族とのコミュニケーションを全職員が実践できるような勉強会も行っている。 | 家族には訪問時に利用者の状況を報告し、意見や要望を言ってくれるような雰囲気づくりに留意している。投書箱の活用で「パンが食べたい」、との利用者の要望により、ミーティングで話し合い、朝食にパン食を加えるなど意見を反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | BS法を用いて職員間ミーティングを実施し、自由な意見を出しやすい環境を作るよう心がけている。又、仕事に対しての不安を全体でカバーし合えるように努めている。 | 管理者は普段の会話の中から職員の要望や意見を聞くよう心がけている。月1回の勉強会は輪番制で担当し、ニーズに沿った内容の勉強会を実施、意見を出し話し合った事が共有でき、サービスの向上に活かされている。ミーティングでメニューの変更の提案が職員からあり、実践されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員の長所を生かし、やりがいを感じてもらおう事と、利用者さんをまきこみ、全体が楽しく明るい雰囲気になるように心がけている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加やホーム内での勉強会実施。勉強会をクリア方式にし、職員に自分を見つめ直し、考えるようにしてもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修で得た情報の共有を図り、今年度は職員4名キャラバンメイト受講し、積極的な情報交換を行い、協働できる関係を築けた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 話しやすい環境作りを意識し、傾聴を行っている。また、前事業所からの情報を基に安心できるような声かけ・態度を意識している | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の話しやすい環境作りや、労いの言葉かけを行い、一緒に考えていけるような関係を構築できるように心がけている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 前事業所やご家族から得た情報をまとめ、アセスメントを行い提供。モニタリングを行い、選択肢を広げる事が出来るように取り組んでいる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事や手芸を行ってもらい、日常生活を共に過ごしている。職員が落ち込んでいる時は励ましてもらい、守り・守られる関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に近況を報告し、ケアの方針を一緒に考え、決定権をご家族にお願いしている。その際にはリスク等の説明をしっかり行っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 住み慣れた場所にドライブに行ったりしている。又、旧友等が面会に来た際は、次も会いに来て頂けるような雰囲気を作れるように努めている。以前買物に行っていた商店への買物支援も行っている | 近くにいる知人を訪問したり、昔から利用している馴染みの店に外国製の石鹸の購入に行く等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。昔から地域で暮らす友人、知人の方が気軽に訪問でき、継続的な交流ができるよう働きかけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 1人1人の個性を理解し、相性を考えレクや創作活動を行っている。全体が参加できるレクを定期的に行い、職員がフォローしている。 | | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所した後もできるフォローは行うようにしている。また、後見人等から求められた情報や相談を受けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の思いにしっかり向き合い、希望に沿ったサービス提供を心がけている。表出困難な方は、表情などを見て、職員や家族と協力し決定す。 | 普段の関わりの中で声を掛け、思いや希望を確認するよう努めている。意思疎通困難な利用者に対しては、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、ご家族や関係者から情報の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人や御家族や前事業所より情報を頂き、御本人の職歴や趣味などを活かせるような環境作りに努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 御本人のペースで、その日の心身状態に合わせた役割を担って貰っている。些細な変化も記録し、共有できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 御本人や御家族の意向を汲み取り、本人が中心になるようチームでアイデアを出し合い計画している。また、同業の方などに助言を貰い、より良いサービスを提供できる様努めている。 | 担当者会議に本人や家族、職員が参加し、意向を確認して介護計画が作成されている。日々の生活の中での気づきや利用者の変化を記録に残し、月1回定期的に行われているケア会議で情報を共有している。情報を基にモニタリングを実施し介護計画が見直され、サービス実施状況の記録もある。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 提供したケアに対する反応や心身状態の些細な変化も記録し、共有し、継続するケアや工夫が必要なケアをチームで話し合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 御本人の心身状態に合わせ、その時必要と思われるケアを提供するよう心がけている。御家族の不安もフォローできるよう勉強会も実施。 | | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問看護や訪問理容の利用をしている。また、定期的にバリアフリーの飲食店に外食に出かけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | できるだけ馴染の医療機関を受診できるよう努めている。医療機関には情報を正しく伝えられるよう、記録し連携を取り合うように努めている。 | 入居前からのかかりつけ医を継続し、精神科、皮膚科、眼科の定期受診も家族が対応できない方は職員が受診支援している。家族が対応する際は情報提供書で日頃の様子が分かるようにし、受診後は家族から口頭で情報提供を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 些細な変化を記録し、適切に伝えられるよう勉強会を実施したり、訪問看護の際には申し送りを徹底し、次に繋がるよう努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 必要な情報等は別紙にまとめ、医療機関に提供している。また、定期的に連絡を取り合い、情報交換やできるフォローを行うよう心がけている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 御本人の意向や家族の希望を確認し、ズレが出ないように話し合っている。また、できる事、できない事を明確にし、説明と同意を得た上で、できる事を全力で支援できるように努める。 | 事業所として看取りの指針があり、入居前や状況変化時に本人と家族に説明し同意書を得られている。医療機関との連携や職員の研修を行い、看取りを経験した職員の話や聞くなど不安の軽減や、職員が終末期に向け同じ気持ちで臨めるよう話し合いを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応の勉強会は定期的実施し、CPRや窒息の対応法は、大きく表記し張り出している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 最低年間2回、消防と連携し避難訓練実施している。その際は近隣住民に協力依頼している。その他に、台風対策や停電対策も徹底している。 | 夜間想定で年2回の消防避難訓練を行い、近隣住民も参加している。避難訓練の様子も記録され参加できなかった職員に共有できるようにしている。非常時の備蓄も3日分非常口付近にリュックに詰め準備されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個性を尊重し、此処に合った声かけやケアを提供できるよう心がけている。また、QOLの勉強会定期的実施し、職員に尊厳とは何かを考えて貰うようにしている。 | 職員は、人間らしい生活や自分らしい生活を送るということを心がけ、本人の意思を尊重しケアを提供している。意思の表出が困難な方でも、表情や様子で気持ちをくみ取っている。QOLの勉強会も定期的に行い、常に尊厳とは何かを考えるようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 御本人の意向を尊重し、思いの表出が困難な方は、一緒に考えたり、御家族から助言を貰い決定できるよう心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 御本人の心身状態により、時間や日程を本人のペースに合わせて過ごして貰っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類は、御本人の希望に合わせて、着替えたりしている。女性はマニキュアや化粧をして貰ったりもしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の下拵えや食器を洗ったりして貰っている。また、可能な限り形ある料理を提供できるよう、個々の咀嚼・嚥下状態を観察し、食事を提供。 | 下ごしらえや下膳、食器洗いなどを職員と一緒にに行っている。職員も一緒にテーブルを囲み同じ食事をとり話も弾んでいる。咀嚼、嚥下状態を考慮し、できるだけ形のある料理を提供できるよう工夫しミキサー食から刻み食に移行された方もいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量を毎回チェックし、食思低下が見られる際は、御本人が希望する食べ物をできるだけ提供できるよう心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 御本人の残存機能を活かした口腔ケアを提供し、足りない部分は職員が補っている。また、1人1人に適した方法で行っている。 | | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人1人の排泄間隔をできるだけ把握し、自己申告が困難な方は、定時誘導を行っている。本人のペースや残存機能を活かし支援している。 | 日中ほとんどの方はトイレで必要最小限の介助で排泄支援している。排泄パターンを把握し、自己申告のない方には定時誘導や表情や仕草を見逃さないよう声掛けし支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医療機関から助言を頂いたり、排便周期の把握や御家族等からも助言や情報を頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日に絶対ではなく、1人1人の心身状態に合わせて、本人の希望に沿った日に入浴して貰っている。 | 本人の希望によりいつでも入浴できるよう支援している。同性介助を基本としているが、シフト上無理な場合は本人に確認を取っている。入浴を拒否される方には声掛けに工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人になりたい時や皆とお話したい時等、その時の心情に合わせて、安心できる環境を提供できるよう心がけている。夜間は、起きている時間を安心・安全に過ごしてもらえるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情をいつでも確認できるように綴っている。また、誤薬を防ぐ為に、1人1人の薬のパッケージの色や錠剤の個数等を別紙にて記載している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事や調理手伝い、その他に、職業歴に合わせてお手伝いを依頼したり、ドライブや散歩等、1人1人に合った対応を心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人が希望した形で外出支援できるよう努めている。その際は、必要であれば御家族や外出先の関係者の方に協力を依頼している。 | 好きな時に近所へ散歩ができるよう見守り支援している。買い物兼ねたドライブに出かけたり、気分転換に個別で外出支援をしたり、外食に出かけたりしている。全員での遠出を企画し、家族や地域の方も参加している。 | |

沖縄県(グループホーム まえはら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 1人1人の能力にあわせ管理して貰い、必要な物や本人が欲している物は、一緒に買いに行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 御本人から希望があった際は、電話のやり取りを援助している。毎年の年賀状は入居者さんと一緒に作成している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の清掃を職員が行い、入居者さんにも手伝って貰っている。また、季節感がある掲示物を入居者さんと一緒に作成し、飾っている。 | テレビの好きな方はテレビが見やすいソファで、歌を歌う方、洗濯をたたむ方など、それぞれの場所で好きなことができるようにしている。中央には自由にお茶やコーヒーが楽しめるように茶器やポットが準備されている。壁には写真や季節の作品が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | その時の御本人の心情や希望に合わせ、1人1人に合った環境を柔軟に提供できるよう心がけている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 危険物以外は御本人が慣れ親しんだ物や家具等を御家族の協力のもと使用してもらっている。また、居室はプライベートな空間なので、職員が入る際は御本人に許可を頂いている。 | 利用者それぞれの入居前から使用していた家具等を持ち込み、壁には写真や作品を飾り、レトロなラジオ台など本人好みの空間で居心地よく過ごせるようにしている。寝具はベッドだけでなく床にマットを敷くなど利用者の状況に合わせている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の能力に合わせ、居室の家具やベッドを配置したり、居室が分からなくなった時の為にドアを工夫している。ホール内も制限無く自由に行き来できるように工夫している。 | | |